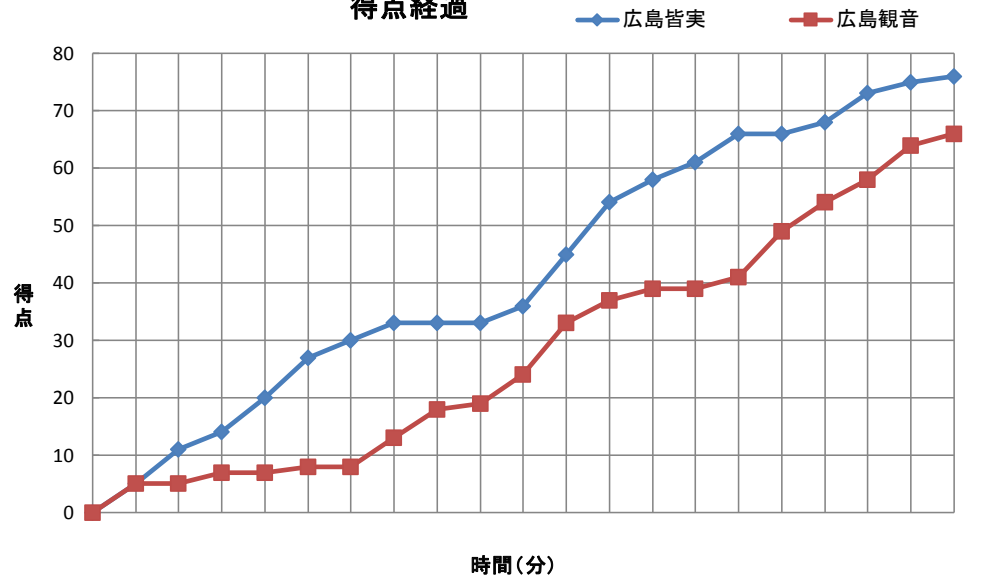


個人トータル表

女子		令和2年10月25日 11:00 開始													
決勝		コジマホールディングス中区スポーツセンター 0													
◎ 広島皆実 (広島県)	76	<table border="1"> <tr><td>27</td><td>1st</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>30</td><td>3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>10</td><td>4th</td><td>25</td></tr> </table>	27	1st	8	9	2nd	16	30	3rd	17	10	4th	25	66 広島観音 (広島県)
27	1st	8													
9	2nd	16													
30	3rd	17													
10	4th	25													
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則		
* 4	小西 里奈	11	2	2	1	1	* 4	大見 あすみ	6	0	3	0	2		
5	村井 陽	0	0	0	0	0	* 5	村田 莉望	10	1	1	5	4		
* 6	廣田 萌々	18	3	4	1	3	6	江刺 茉凜	-	-	-	-	-		
* 7	丸山 愛友	19	3	5	0	3	* 7	萩原 芽生	33	6	7	1	3		
8	田村 美紀	-	-	-	-	-	8	小林 愛花	-	-	-	-	-		
9	小林 愛奈	0	0	0	0	1	9	北林 風花	-	-	-	-	-		
* 10	大塚 夏奈	15	3	3	0	1	10	横尾 巴菜	-	-	-	-	-		
11	中水 唯歌	2	0	1	0	2	11	高石 美央	-	-	-	-	-		
12	小林 瑞優	0	0	0	0	0	12	澤崎 莉実	-	-	-	-	-		
13	平田 彩光	-	-	-	-	-	13	川原 花梨	-	-	-	-	-		
* 14	三次 真歩	11	0	4	3	3	14	沖 花 純	-	-	-	-	-		
15	羽原 希美	0	0	0	0	0	15	山本 莉香	2	0	1	0	2		
16	森田 花菜	0	0	0	0	0	16	安田 結萌	-	-	-	-	-		
17	土屋 さくら	0	0	0	0	0	* 17	藤井 明日菜	13	0	5	3	2		
18	藤田 涼音	-	-	-	-	-	* 18	山崎 いづみ	2	0	1	0	0		
コーチ	村井 幸太郎					0	コーチ	小松 広道					0		
Aコーチ	平田 みな美						Aコーチ	田中 満子							
合計		76	11	19	5	14	合計		66	7	12	6	11		
主審: 大谷英紀															
副審: 山住泰光															
副審: 森原隆															

得点経過



CTO	1・2P	3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	14:39	:	37:30	39:22	39:55	:	:	:
TeamB	7:00	:	25:39	31:24	37:07	:	:	:

【戦評】
スターティングメンバーは広島皆実#4, 6, 7, 10, 14、広島観音#4, 5, 7, 17, 18。広島皆実、広島観音ともにディフェンスはハーフコートのマンツーマンで試合開始。
1Q: ティップオフ後、両チーム落ち着いてゲームが展開される。広島皆実機動力ある激しいディフェンスから速攻、ドライブインからレイアップシュート、力強いオフェンスリバウンドからのゴール下のシュートなどを立て続けに決め、さらに3Pも確率よく、バランスよく得点を伸ばす。広島観音はスクリーンを多用したセットプレーからズレを作るもアウトサイドシュートが決まらず苦しい展開が続く。徐々に点差が開き残り3分で前半1つ目のタイムアウトを請求。その後も広島皆実の勢いを止められず、点差は広がり1Qを27対8の広島皆実リードで終了。
2Q: 広島観音は3-2のゾーンを展開し、広島皆実のターンオーバーを誘発。勢いを止める。その後、広島皆実が前半1つ目のタイムアウトを取り、落ち着かせようとするもアウトサイドが入らず広島観音ベースのゲーム展開が続く。勢いを取り戻した広島観音は7番の3Pやスティールからの得点を重ね、36対24で追い上げをみせ、前半を広島観音が点差を12点に縮めて2Q終了。
3Q: 広島観音は2Q同様に3-2のゾーンを展開する。途中からゾーンを2-3に切り替え、ディフェンスリバウンドから速い展開でドライブインを仕掛け得点を重ねる。広島皆実機は相手のゾーンディフェンスに対してアウトサイドシュートを軸に得点を重ねる。このクォーターだけで3Pを#4, 6, 7が2本ずつ、#10が1本の合計7本3P沈め点差をさらに広げる。このクォーターは広島皆実のアウトサイドシュートの精度が際立ち、66対41で25点差を付け広島皆実リードで3Q終了。
4Q: 広島観音は序盤からオールコートで2-2-1から2-3のゾーンディフェンスを展開。オフェンスも#7の3連続3Pやドライブイン、#4の切れのあるドライブからのジャンプシュートなどで、一気に主導権を握ろうとする。広島皆実もゾーンディフェンスに対して#7がスクリーンプレーからジャンプシュートを決めきり、両者譲らない展開。広島観音は残り2分53秒で最後のタイムアウトを使い切り、最後の追い上げを見せるも後一歩及ばず試合終了。
最終的に77対66で広島皆実が11点差で勝利した。広島観音の組織的なチームディフェンスや#4, 7の力強く巧みなプレーは会場を魅了した。優勝した広島皆実は広島県代表として、力強く機動力あるアグレッシブなプレー、安定したアウトサイドシュート等を武器に全国大会の舞台で勝ち上がることを期待している。

戦評: 手島 祥平

記録: 広島なぎさ